

# OISCA

—人と育む、地球といきる—



特集

## 「できる」を見つけるボランティア!

オイスカと踏み出す国際協力への第一歩

JANUARY  
2026

1

# “仕合せ”の心がつなぐ、 地球と共に生きる未来

公益財団法人オイスカ 理事長 中野 悦子

令和8（2026）年丙午ひのえうま明けましておめでとござい  
ます。  
今年、国際連合が定めた「持続可能な開発のためのポ  
ランテニア国際年」です。こ  
れは2026年が「国際ボラ  
ンティア年」の25周年、「国連  
ポランテニア計画（UNV）」  
の55周年に当たることを考慮  
して、ポランテニア活動の認  
知、促進、支援、ネットワー  
ク化、統合を加速することが、  
持続可能な開発の実現にとつ

て極めて重要であるとして決  
定されたものです。  
オイスカは「ポランテニア」  
という言葉が一般に普及する  
よりも前に発足しました。今  
から65年前です。それでは、  
それ以前の日本人に「ポラン  
テニア」精神がなかったかと  
いえば全く逆で、「向こう三軒  
両隣」や「お互い様」の言葉  
で分かりますように、貧しい  
ながらも皆で助け合って生活  
していました。或いは、「幸せ」  
を「仕合せ」と書いていたよ



インド・東パキスタン（現バングラデシュ）に  
旅立つ開発調査団（1966年3月）



日本式稲作を自ら実践してみせる  
開発団員（インド／1966年5月）

## What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際協力NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持ち活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

## OISCAという名称の意味

**O**rganization 機構  
**I**ndustrial 産業  
**S**piritual 精神  
**C**ultural 文化  
**A**dvancement 促進

人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。

うに、お互いに「仕え合う」ことが相手の喜びとなり、自分自身の喜びともなって、そこに幸せを感じる精神性を持った民族であったと言えます。後にインド農業研究所の教授を務めたプー（B.L.Puro）氏が、1966年にインドに派遣されたオイスカの日本人農業開発団の行動をまとめた手記より引用します。

「中野與之助翁によって1961年に創立された日本のNGOオイスカ・インターナショナルが1966年5月、献身的で経験豊富なボランティアを派遣した。彼らは田畑や作業場で、地元の農民や州政府役人達と共に働きながら、いろいろな農業技術の実演を行った。彼らは、金銭的な見返りを求めることもなく、驚くほどの情熱を持って日々の作業に取り組んだ。まさに、働くことの尊さを行動で示した一団であった。彼らは、地元の農民達と一緒に汗を流して働くことを厭わず、自分たちの持つ技術的ノウハウを田畑での実践を通して伝えたい、という情熱の持ち主達であった。実演された農業技術は州内

の零細農家にも受け入れられるものであった。田畑や家庭から出た有機物や廃棄物を堆肥として再利用し、それを田畑に撒くことによって収量を上げる自然に近い農法は持続可能なものであり、零細農家が糧を得るのに十分であった」

この手記によって分かりますように、オイスカは創立当時から今日まで、愚直なまでに地球と共に生きる活動、即ち持続可能な開発を実践してきました。そして現在では地球環境保全にも取り組み、「子供の森」計画の推進によって、次代を担う子どもたちにも、地球の自然環境を慈しむ教育を行っています。それは、かけがえない地球に生まれ合わせた幸せに対する恩返しのような行動であることも自覚できるように、と配慮しながらの活動です。

広大無辺に広がる大宇宙の中でも、地球は生命力あふれる星の一つです。その地球は、かつて宇宙飛行士ラッセル・シュワイカート氏が、「触れば壊れるんじゃないかと思うほど繊細で美しく青い水の惑星」と語っています。そのよ

うな地球に住まわせていただいているにもかかわらず、現在、月の資源を視野に入れた宇宙開発が進められていることに危惧の念を抱かずにはいられません。絶妙な調和によって保たれているのが宇宙です。オイスカは皆さまと共に、先人たちが遺した「足るを知る」精神を肝に銘じ、地球を、そして大宇宙の偉大な姿を後世に伝えるべく活動してまいります。本年も引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



1991年、フィリピンから「子供の森」計画の活動は始まった

特集

# 「できる」を ④ 見つける ボランティア!

## オイスカと踏み出す国際協力への第一歩

2026年は、国連が定めた「持続可能な開発のためのボランティア国際年」。持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けたボランティアの役割と重要性が、今、世界で再び注目されています。環境問題や貧困など、地球規模の課題は大きすぎると感じられるかもしれません。しかし、その解決を担うのは私たち自身です。一人ひとりの「できること」の積み重ねが、持続可能な未来をつくる力になります。オイスカも、そんな一人ひとりの思いと行動に支えられ、活動を続けてきました。今号では、その多様なボランティアの取り組みを紹介します。

2025年 9月 地球環境再生植林フォーラム2025 in フィジー



「地球環境再生植林フォーラム2025 in フィジー」ツアー(山梨県支部)

1970年 東パキスタン救援街頭募金



11月に、東パキスタン(現バングラデシュ)を襲ったサイクロンの猛威は、「20世紀最大の被害」として、遠く離れた日本にも衝撃を与えた。オイスカは直後から街頭募金を展開。多くの支援を得て、災害救援調査団を現地に派遣した(写真は静岡県)

2014年 海岸林再生プロジェクト



2011年の東日本大震災で被災した海岸防災林を再生する「海岸林再生プロジェクト」では、14年から一般ボランティアの募集を開始。苗づくりから間伐まで林業作業員の工程を補完する役割を果たしている(宮城県名取市)

1994年 フィリピン30日植林ボランティア



1980年代からオイスカ全国組織主体の海外植林フォーラム(ツアー)が活発に開催されるようになり、90年代には日本人青年が長期間現地に滞在するボランティア企画も実施。研修生や「子供の森」計画参加校の子どもたちと共に緑化に励んだ(写真はケソン州ルクバン)

1980年 苗木一本の国際協力キャンペーン



「21世紀に太陽と水と空気を!」をキャッチコピーに、オイスカは1980年から「苗木一本の国際協力キャンペーン」を国民運動として実施。全国のオイスカ組織を中心に、大勢のボランティアが街頭募金やチャリティバザー、チャリティイベントに参加した(写真は東京都)

2006年 ベルマークボランティア



各地から送られてきたベルマークを集計。「子供の森」計画支援につながら、気軽にできる国際協力として、子どもから年配の方まで幅広い層のボランティアが活躍している



## 「やってみよう」の気持ちで第一歩

皆さんは、ボランティアという言葉に、どんなイメージを持っていますか。

日本では、阪神・淡路大震災により、市民ボランティア文化が社会に広まった1995年を「ボランティア元年」と呼び、その言葉や活動がより身近なものになりました。90年代後半から2000年代にかけて、徐々に学校の課題やCSR（企業の社会的責任）の一環としての「ボランティア」が広がり、活動に参加したという方も多いのではないのでしょうか。その一方、「課題のために仕方なく」「時間がないから難しい」などという理由から、ボランティアを「無償の奉仕活動」「特別な人がするもの」と捉えてしまうこともあるかもしれません。しかし、語源とされているラテン語「Voluntas」が「自

由意思」を意味するように、ボランティアの本質は自発的な行動にあります。厚生労働省も、ボランティアを「自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する行為」とし、その性格として「自主性（主体性）」「社会性（連帯性）」「無償性（無給性）」を挙げています。つまり「社会のために何かできることをやってみよう」という思いや行動こそがボランティアであり、その第一歩なのです。

## 自分の「できる!」を見つけよう

オイスカは、そうした思いを持った多くの方々に支えられて、創立から現在まで活動を続けてきました。その関わり方はさまざまです。3ページで紹介された1960年代

当時の日本人農業開発団も、自らの知識や技術を活かし、アジアの貧困を農業の改良普及によって改善しようと、志を持って各国へ赴きました。また開発団員のような長期間でなくとも、ツアーを通じた海外での植林や、国内での街頭募金、チャリティバザーの開催など、全国各地でボラン

ティアが活躍。「ボランティア元年」以前から、特別なことではなく、日常の選択の一つとして「できることをやってみよう」がありました。とはいえ日々情報化が進み、そのスピードに追われるように、現代はますます忙しくなっています。内閣府が全国の8200名を対象にした調査<sup>※2</sup>によると、過去1年間に「ボランティアに参加したことがある」と回答したのは全体の17・4%にとどまりました。また、参加の妨げとなる要因について、「時間がない(45・3%)」「ボランティア活動に関する十分な情報がない(40・8%)」ことが上位に挙げられています。

一人ひとりの生活と、社会そして世界の課題は地続きです。限られる時間の中で、地球や自然、皆の暮らしのために、自分自身に何ができるのかを、オイスカと一緒に考えてみませんか。

次ページから、オイスカの国内外のボランティア活動を、3事例を中心に紹介します。

※1 厚生労働省「ボランティアについて」  
※2 内閣府「2022年度（令和4年度）「市民の社会貢献に関する実態調査」

—— 企業の社会貢献の視点から ——

## ボランティアの意義と近年の傾向

公益社団法人日本フィランソロピー協会 (JPA)  
事務局長 青木 高さま

当協会では、健全な民主主義社会の実現に向け、性別、年齢、障がいなどに関係なく、一人ひとりが社会の中で役割を果たせるよう、個人の社会参加を推進しています。1995年の阪神淡路大震災からボランティアが日本で広がり、当協会はさまざまなかたちでNPO / NGOと連携し、ボランティアを紹介してきました。2020年頃から、企業のSDGsへの取り組みの方向性として、「社会と企業の持続可能性のためには、従業員の社会参加意識を高めることが不可欠」という認識が強くなり、その手段として従業員のボランティア参加を推進する企業が増えています。活動は、環境問題のみならず、障がい者支援、次世代育成、地域活性化などさまざまです。社会課題も複雑化してきており、従来のジャンル別で考えるのではなく、課題の本質を見極めつつ、その中で必要とされている活動を提案することを



心掛けなければならないと思っています。年々各企業の参加数は増えてきていますが、ボランティアは参加する人数を増やすことが目的ではなく、あくまで社会課題の解決が目的です。プロボノなどNPO / NGOに対し、長期でコミットして取り組む活動も増えつつあります。当協会としても、誰もが参加できるボランティア活動を推進するとともに、NPO / NGOと共に社会課題に取り組む意欲のある方をつなげる機会を提供し続けたいと考えています。

### 公益社団法人日本フィランソロピー協会 (JPA)

一人ひとりが「社会課題の解決」の実現に向けて力を尽くす主体であるとして、NPO / NGOとも連携しながら、企業や、その従業員をはじめステークホルダーなど、個人の社会参加・社会貢献を推進する多様な事業を展開。オイスカも「企業のサステナビリティ推進支援事業」を通じて、多くのボランティアを受け入れている。

# 現地の活動、 文化・人に触れる 海外ボランティア

オイスカが活動する各国で、人材育成や環境保全、農村開発の現場を視察するだけでなく、プロジェクトに参加する地元住民や「子供の森」計画に参加する子どもたちと一緒に、植林や農作業などに取り組みます。派遣先はフィリピン、インドネシア、タイ、モンゴル、フィジーなど。その時々によって異なりますが、オイスカの各支部や推進協議会が企画するツアーをはじめ、支援企業、個人単位でのボランティアなど、さまざまな参加のかたちがあります。

実施日数(目安)：1週間程度

## POINT!

- ・現地の活動の成果や課題を肌で感じることができる！
- ・農村の人々との交流や植林作業など、観光ツアーではできない体験ができる！
- ・日本語が話せる現地スタッフの存在が心強い！



## PICK UP タイ植林ツアー

1975年に活動を開始して以来、タイではオイスカタイランドが中心となり、たくさんボランティアツアーを受け入れてきました。その中で培ったノウハウと、現地スタッフのチームワークを活かした高いホスピタリティで、参加者の満足度が高く、何度もタイを訪れるボランティアも多くみられます。派遣の主体は、主にオイスカ支部組織や支援企業など。継続的な訪問で現地の活動を応援する団体もあり、プロジェクトに参加する住民やスタッフの大きな力となっています。

活動内容はツアーによってさまざまですが、ほとんどの場合、メインイベントは、やはり植林です。山間部や平野



住民たちも一緒になって、山間部の植林地に向かう



自然の恵みを肌で感じるエコツアー！

部での植林と、沿岸部でのマングローブ植林、いずれも重労働ではありますが、地元住民と共に取り組む作業は、とてもやりがいがあります。植林のほかにも、ホームステイや「子供の森」計画参加校の訪問、さらに近年はマングローブプロジェクトにおける石鹸づくりやカヤックでの森林浴などのエコツアーも人気のプログラムです。

タイでは、参加者に現地の課題や活動の意義をより深く理解してほしい、より良い体験にしてほしいとの思いから、必ず初日にオリエンテーションを行っています。現地スタッフと日本からのボランティア双方の熱い思いが、プロジェクトを支えています。

## 現地住民Voice

### 皆さんとつくり、育ててきた森を、大切に守っていきます！

ボランティアの皆さんには、はるばる遠いところからやってきて、私たちと共に木を植えていただき、心から感謝しています。

私たち植林グループのメンバーは、木を植えるのはもちろんのこと、事前の苗木の準備や植林地整備なども行っています。これがなかなか重労働なのですが、ボランティアの皆さんと一緒に活動するときのことを思うと、全く苦にはなりません。海外から来る皆さんは、ここにいる間、慣れない土地、慣れない環

境の中でも、全力で頑張ってくれます。そして、まるで家族や兄弟であるかのように接してくれて、いつも楽しく作業することができます。それが、とてもうれしいのです。

これまで森づくりを通して、日本をはじめとする世界各地に、たくさんの方々ができました。そんな皆さんと一緒に苗木を植えて、育ててきた森は、私たちにとってかけがえのないものになっています。これからも生涯をかけて、自分たちの手で守り続けたいと思っています。本当にありがとうございます。

### トンカム・タチャーさん

ラノン県/  
ンガオ村グループメンバー





植林地までトラックの荷台に乗って移動！  
悪路もアトラクションのように楽しんで！

オイスカタイの植林ツアーの目的は2つあります。一つは、日本からの参加者への啓発です。単に植林し、感動することがゴールではなく、帰国後に世界の森や自然を守るための、次の一步を踏み出すきっかけとなって、はじめて成功だと考えています。そのため、オリエンテーションの実施や、活動の意義やタイ

幸せをつくる  
森づくり

オイスカタイ 事務局長  
プラヤット・サバンスック



スタッフレポート

の森について詳しく説明したハンドブックの作成、訪問毎の活動を記録できるグリーンパスポートの配布など、深い理解や次の取り組みにつながる仕掛けづくりにも力を入れています。もう一つの目的は、タイの住民たちの士気を高めることです。彼らは森づくりプロジェクトの主体として、毎日植林地の整備、苗木づくり、植林、その後の管理と大変な作業を何年も続けています。これは住民たちだけでもできることですが、遠く日本から来てくれるボランティアの存在が、彼らを力づけ、彼らの森づくりへの誇りにつながっています。

このように、植林ツアーは現場を学び、応援し、お互いに力をもらう大切な機会とな



植林やホームステイで共に過ごす時間は、国境を越えた家族や友人の絆を育みます

「日本の皆さんには、タイにいる間は時計を外し、自然の時間に身を任せ、ありのままを楽しんで共に活動に取り組んでいただきたいです。それは、現地の森づくりに大きく貢献し、その人柄からたくさんの方々の日タイ双方の人々から慕われたオイスカタイ総局役員の故カヤイ・トンヌヌイ氏が生前よく話していた言葉です。」

してその後には、日本人とタイ人が大切な友となります。タイでは、昔から『森をつくる人は幸せをつくる』と言われていて、私たちは森づくりを通して仲間となり、幸せを生み出していくのです。未来に生きる子どもたちへ豊かな森を遺すため、そして幸せのために、皆で頑張りましょう！

さまざまな応援のしかた

日本語指導ボランティアも!

実施日数(目安): 1ヵ月~  
現地研修センターで、研修生や技能実習生として訪日予定の青年たちに日本語を指導。現在、フィリピンのバゴ研修センターで活動している加藤義昭先生は、中部日本研修センターでもボランティアで研修生たちに日本語を教えています。

フィリピンの若者に日本語を教える加藤先生



楽器の寄贈と演奏指導を継続!

実施日数(目安): 1週間程度  
会員の宮澤兌郎さん(広島在住)は、ご自身の音楽仲間と共に楽器やアンプ、マイクなどの寄贈品を携え、20年以上にわたりフィジーを訪問。教会や学校などに寄贈し、子どもたちには演奏の指導も行っています。



日本の学校で使われていたピアノを寄贈

←宮澤さんのご友人(左)が演奏を指導



子どもたちの生きる未来が、豊かな自然とともにありますように!

〈富山県支部〉

## 緑の里山保全 森づくり活動

富山県支部では、「緑の里山保全森づくり活動」を2002年から実施しています。富山市内の旧大沢野町下夕林国有林で4年間、坂本地区で3年間、猿倉山麓で10年間取り組み、17年からは立山町天林地区で約1.1haの森づくりを継続しています。猿倉山麓では、長年の取り組みによって、植樹したヤマザクラが大きく生長。ゴールデンウィークには満開となり、地域の人々を楽しませていきます。

現在活動する天林地区では、



森林教室では紙芝居を使い、分かりやすく子どもたちに森の働きを伝えています！

これまでの9年間で約1600本を植樹してきました。当初に植えた区画は、春には桜が咲き誇り、秋には栗が実る豊かな森となり、人々の憩いの場として親しまれています。また24年11月には、富山県の「森づくり活動によるCO<sub>2</sub>吸収量」の認証を受け、天林地区の森づくりによるCO<sub>2</sub>吸収量が年間1.7tと認定される成果も上がっています。25年6月には、雨の降る中、企業や個人の会員をはじめ、地元ポーターイスカウトの子どもたちなどが参加し、コナラ、クヌギ、クリ、ミズナラ、ブナ、サクラの6種類120本を新たに植樹しました。併せて、次世代を担う子どもたちを対象に、植える木の種類や特徴、森の働きなどを学ぶ森林教室を開催し、自然の大切さについて考える機会を提供しました。

また、苗木が立派に生長するように、下草刈りを5、7、9月の年3回実施しています。腰の高さまで生い茂った雑草を、刈払機や鎌で刈る大変な作業ですが、毎回多くのボランティアが参加し、活動を支えています。

# ふるさとの緑と暮らしを守る 国内ボランティア

森づくり編

森を健全に保つためには適切な管理が不可欠。これは、日本の森も同様です。国内のオイスカ支部、推進協議会では、ボランティアを募りながら、地域の森林保全・整備活動に取り組んでいます。私たちにさまざまな恵みをもたらしてくれる森に足を運び、自らの手で守る体験をすることで、自然について学び、その尊さを感じることができます。家族でも参加できる活動もあり、子どもたちの自然体験の場ともなっています。

実施日数(目安)：半日～1日

## POINT!

- ・地域の森づくりに貢献！
- ・日本の森の課題や森林保全の必要性が分かる！
- ・子どもたちと一緒に参加できる！

## ボランティア Voice

富山県の誇る立山の麓、天林地区でのボランティアを通して、多くの方と顔馴染みになりました。植えた木々の生育具合や下草刈りの大変さなど、参加者同士の会話で心と心の交流にもなり、活動を重ねるごとに木の生長も実感しています。皆さまさまざまな理由で参加されていると思いますが、私は、頼まれてオイスカの会員になったこともあり、初めはこの活動に全く関心がありませんでした。参加を決めたのも支部からの声掛けで、仕方なくのことでした。しかし、皆が汗を流して一

生懸命に作業し、木々の生長を眺めながら談笑する姿を見たり、作業後の充足感の中、仲間との共通の話題で盛り上がるうちに、積極的に参加するようになっていました。

その縁で、支部の海外植林ツアーにも毎回参加するようになり、タイでは「兄貴」と呼んでいるソボンさん(オイスカタイ)との出会いもありました。森づくりをきっかけに、仲間や海外との交流にもつながるボランティアの魅力も、多くの人にも広げていきたいです。

杉本 仁志さん(写真左)

昨年12月に「兄貴」と久しぶりに再会しました！



……スタッフレポート



## ふるさとの森を守る どうしよう

オイスカ富山県支部 木村 肇

森は、水源涵養や二酸化炭素の吸収など、私たちにさまざまな恩恵を与えてくれます。私たちにとってふるさとの森は、とても大切な存在です。

私が富山県支部の「緑の里山保全森づくり活動」に事務局として携わるようになって、今年で2年になります。支部では毎年、年一回の植樹と、年3回の下草刈り作業を行っています。そうした作業の中で土に触れ、一本一本苗木を植えていると、自然の命のつながりを実感することができます。また、子どもたちに自然の大切さを伝えながら、一緒に植えた木々がやがて大きな森になることを思うと、未来への希望を感じます。植えるだけでなく、苗木が生長するための整備活動も



上/刈払機での作業は、特に安全に気を付けています  
下/下草刈り作業後。日の光がしっかり当たること立派な木に育ちます

でも重要です。天林地区では、1.1haの敷地の雑草を刈払機で刈りますが、私は機械を安全に正しく使うために講習を受け、修了証をもらいました。高く伸びた雑草を刈っていくと、隠れていた小さな苗木が顔を出し、生命力の強さを感じるとともに、これからの生長に期待が膨らみ、さらに大きく育つ姿に再会できるのが楽しみです。一方で、動物などに荒らされない心配にもなります。

植えた苗木が森となるには長い年月と、たくさんの手間がかかります。しかし、森は鳥や昆虫などの生き物のすみかとなるだけでなく、水や空気を提供するなど、私たちの生活にも大きな恵みをもたらします。ふるさとの森を守るということは、私たち自身の暮らしを守ることでもあり、次世代へ豊かな自然を引き継ぐための大切な責任です。これから植樹や森林保全の取り組みを続けていきたいと思っています。

そしてボランティアの皆さま、美しいふるさとの森を守るため、引き続き活動へのご参加、ご協力をお願いいたします。



植樹作業は子どもたちも活躍!

### さまざまな応援のしかた

#### 海岸林再生プロジェクト 実施日数(目安): 1日



力仕事も多く  
やりがい抜群!

東日本大震災で被災した、宮城県名取市のマツ林を再生する取り組みです。プロジェクト開始から14年経つ現在も、クズの刈り取りや間伐、モニタリングなど、全国から参加するボランティアが活躍。これまで延べ16,000人がボランティアに取り組みました!

〈2026年度ボランティア実施日(予定)〉  
5月30日/6月6・27日/7月11日/  
9月5・26日/10月10日/11月7日  
※詳細・お申込みはHPをご確認ください!▶



活動ブログ  
随時更新中!

#### 富士山の森づくり 実施日数(目安): 半日~1日



「協働による森づくり」として企業、団体、行政の協力のもと、支援企業の社員の方々のボランティア参加もいただきながら、活動を進めています。年に一度の「オイスカの日」には、各地のオイスカ会員を含む150名超のボランティアが集まり、森林整備を行っています。

〈2026年度「オイスカの日」〉  
6月下旬~7月上旬に実施予定です。  
※これまでのボランティア活動のレポートはこちらからご覧いただけます!▶



詳細を  
チェック!



### ボランティア Voice

皆さんこんにちは。私は、2023年度にSOMPO環境財団の実施する「CSOラーニング制度」というインターンシッププログラムに参加し、オイスカを知りました。この出会いと、研修センターでの活動は、私の人生と価値観を変え、世界に目を向けるきっかけを与えてくれました。その後、ニュージーランドでのワーキングホリデーを体験し、世界の人々と関わることの楽しさを改めて実感しました。

そして、この経験を思い出せ終わらせないために、オイスカでのボランティアを決め、現在、研修生や技能実習生への日本語指導やSNSを通じた広報などに携わっています。

私は、「自ら行動して得た経験は、必ず生きる肥やしとなり、人生を豊かにしてくれる」と信じています。オイスカでの活動を通じた学びは、私の生きる糧です。これからも学び続け、恩返ししていきたいと思っています。

荒川 良寛さん

2023年度中部日本研修センターインターン



毎月研修生や技能実習生の散髪をしてくださる渡辺さん(右)。時にはスタッフもお世話になっています

農業への探求心や熱心な姿勢

また鈴木哲夫さん、岩瀬和義さんも継続的に活動し、その

と共に汗を流してきた酒向淳治さんの存在は欠かせません

愛知県豊田市にある中部日本研修センターでは、オイスカ愛知県支部・県下の推進協議会主体の活動や、個人参加のボランティアによって、センターの運営をさまざまな面から支えていただいています。特に、農業研修の大切な実践の場である農場の管理では、20年以上にわたり、ボランティアとしてスタッフや研修生

は、研修生の刺激になっています。鈴木さんは、地元スーパー「やまのぶ」への出荷も担当しています。さらに近年は、豊田推進協議会が主体となって実施する「農業ボランティア」を通じて、たくさんの方が共に農作業に取り組んでいます。

農業以外の場面でも、神谷弘生さんは、豊田地区の啓発活動を担当し、地元での仲間づくりに尽力。中村浩之さんは、センターの広報紙「中部NOW」の編集や日本語指導、大工仕事までなんでもこなします。そのほか、福田香緒里さんは、日本語や日本文化を学ぶ一環としての歌唱指導、渡辺素巳さんは理髪、元イン

ターンの荒川良寛さんはSNS運営など、一人ひとりの持てる時間や技術を活かして、あらゆる面でボランティアが活躍しています。

皆さんに共通するのは、オイスカの理念を深く理解し、楽しみながら、継続して取り組んでいること。活動の場はそれぞれでも、志を同じくする仲間として各国の農村青年の育成をサポートしています。

# 3 スキルを活かして 人材育成サポート! 国内ボランティア

研修センター編

海外青年への農業指導や技能実習の基礎研修などを進める国内研修センターでは、さまざまな場面でボランティアが活躍しています。その活動は、実習農場での農作業や、研修生・技能実習生への日本語指導のほか、HP・SNS運営、パソコンなど精密機器の整備、食堂の調理補助、農産物の出荷など多岐にわたります。研修生との交流の機会も多く、日本にいながら得意を活かして国際協力や交流ができる、やりがいのあるボランティアです。

実施日数(目安)：数時間～1日を継続的に

### POINT!

- ・スキルを活かして継続的に活動したい方向け!
- ・研修生や技能実習生の成長を近くで感じられる!
- ・センター行事・イベントへの参加で、研修生との交流の機会も!



……スタッフレポート



感謝の心と  
仲間の存在が社会に  
笑顔を生む力になる

オイスカ豊田推進協議会 会長 梅村 清春

豊田推進協議会はイベントや行事だけでなく、ボランティア活動も積極的に行っています。

中でも、2022年度から毎月一回(第2土曜日)のペースで継続的に実施している「農業ボランティア」では、中部日本研修センターを農場運営の面でも支えたいと会員有志が集まり、農作業に汗を流しています。5月は梅の収穫、6月は3千本のサツマイモの苗植え、7〜11月はレモン・栗の果樹園と梅園の草刈り、10月は約2tのサツマイモを収穫、12〜1月は果樹の霜よけと梅の木の剪定、さらに3月は稲穂の播種など、年間を通して活動しています。参加者は毎年100名ずつ



76名が参加し、サツマイモの苗3,000本を植えつけました

増え、4年目の今年度はすでに400名を超えています。笑顔あふれる社会を実現するために、ボランティア精神を持って活動する場、自然の中で老若男女と一緒に活動し心と体が大自然に溶け込むような場として、オイスカ会員以外にも広く参加を呼びかけています。真夏の灼熱地獄でも酷暑であろうとも、ボランティア仲間はいつも顔を出してください。なぜ、来ていただけるのか。たとえ短時間



研修生や海外スタッフも一緒になって作業します!

でも顔を出して仲間と言葉で、普段味わえない喜びを感じるからではないでしょうか。「農業ボランティア」には、参加者の心に響く充実感と幸せがあると確信します。豊田推進協議会では、ほかにもさまざまな行事やボランティアを実施していますが、「社会や誰かのために活動させてほしい」という感謝の心があれば、どんなに大変な作業でも苦勞を感じることはありません。一人ひとりの持つ能力や時間に合った取り組みをすることが、何度でも来たい「ボランティアにつながるもの」だと思います。今後も研修センター支援を通じてオイスカ活動を盛り上げていく覚悟です。農作業に

さまざまな応援のしかた

気軽にできるボランティアいろいろ

実施日数(目安): 数時間~1日

研修センター以外でも、得意を活かしたボランティアはたくさんあります。ベルマーク・書き損じはがきの収集・集計や、オイスカのプロジェクトやセンターの生産品の購入、ポイント寄附なども、国内外の活動を支える大きな力になります!



随時募集中!

切って、集めて、世界の森づくり支援!  
ベルマーク収集ボランティア

ベルマークは、ベルマーク教育助成財団の友愛援助を通じて1点1円となり、「子供の森」計画の支援につながります! 仕分けの必要はありません。郵便や宅配便などでオイスカまでお送りください。

〈送り先〉  
〒168-0063  
東京都杉並区和泉2-17-5  
公益財団法人 オイスカ 啓発普及部



親子で  
楽しく参加!



限らずボランティア参加の希望があれば、どうぞ中部日本研修センターまでご連絡ください。



頼れるリピーターの皆さん

**国内** オイスカ・インターナショナル  
**国際理事会に13カ国・地域72名が参加**  
**ウズベキスタン総局発会の承認も**

2025年10月15日、国立オリンピック記念青少年総合センターで、オイスカ・インターナショナルの国際理事会が開催され、13の国・地域から72名が参加しました。オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁は、冒頭の挨拶で「変化の著しい世界においても、オイスカファミリーの心一つにし、互いに協力し合うことが大切」と話し、「創立当初に掲げられた理念『地球上のあらゆる生命の基盤を守り、人々がさまざまな違い



コロナ禍以降は参加者数が減少していたものの、今回は前年の11の国・地域55名を上回る規模となった

を乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界』の実現に向けて、一歩ずつ前進していこう」と呼びかけました。各総局からの報告では、自然災害や食糧危機といった各国が直面する課題解決に向け、「子供の森」計画など、オイスカの理念に基づいた取り組みを推進する意義や、総局間の連携の重要性が強調されました。さらに、3年前から進められている「広域アジア・環太平洋戦略パートナーシップ構想」に関する議論では、各国の代表が研修生OB・OGによる地域貢献やビジネスの成功事例を紹介し、持続可能な事業につなげるためのさまざまなアイデアを提示しました。また今回、新たにウズベキスタン総局が正式に承認され、海外総局のある国・地域は全部で30となりました。夜には、オイスカ首都圏支部との共催で「オイスカのつどい」を開催。同支部の永年継続会員を表彰するとともに、会員と国際理事との懇親の時間も設けられました。

**海外** インドネシア  
**長年のマングローブ植林活動が評価**  
**中部ジャワ州より功労賞が贈られる**

25年10月15日、インドネシアの中部ジャワ州で、州政府が主導する沿岸保全キャンペーン「Mageri Segoro (海の柵をつくる)」が、州内17の沿岸県・市を対象に同時に展開されました。メイン会場となったクンダル県のクンチャナ海岸では、政府関係者や地域住民、企業などが集まる中、アフマド・ルトフイ州知事がマングローブの大規模植林を率い、150haに130万本を一齐に植樹。当日は、長年ジャワ島北岸でマングローブ植林プロジェクトを展開しているオイスカも、州政府の招きを受けて植林に参加しました。

また州政府は、マングローブの植林は、海岸浸食や海面上昇などの影響を受ける沿岸住民の生活を守る取り組みであるとして、州内で活動する



州知事(左)から賞状を受け取るラフマツ氏

**国内** 岐阜県支部50周年  
**半世紀の歩みをさらに未来へ**  
**感謝と決意の式典に約100名が出席**

25年11月9日、岐阜市内で、岐阜県支部50周年式典が開催され、会員や支援者など約100名が出席し、半世紀にわたる活動を振り返るとともに、設立時から取り組みを支えてきた9名(法人7社、個人2名)に会員継続50年の特別功労賞が贈られました。有限会社セントラルローズ相談役の大西隆氏は受賞者を代表し、「50年は通過点。引き

続き支援をしていきたい」と力強く挨拶しました。また愛知、富山、静岡県支部による活動報告も行われ、各地の特色あふれる取り組みに、参加者は熱心に耳を傾けていました。



功労賞対象者に、中野悦子理事長から感謝状が手渡された

と題して講演。涌井氏は、「オイスカの目指すところは、人々が地球で幸せに暮らせること。同じ目標を持つ仲間として、今後とも一緒に取り組んでいきたい」と語りました。

また州政府は、マングローブの植林は、海岸浸食や海面上昇などの影響を受ける沿岸住民の生活を守る取り組みであるとして、州内で活動する

団体に功労賞を贈りました。オイスカも同州の5県で住民と共に活動を継続しており、その取り組みが評価され受賞。ナショナルコーディネーターのラフマツ氏が代表し、賞状を受け取りました。



式典ステージとなったテント前で集合写真

## 海外 オイスカフィジー35周年 日本の会員らも参加し記念式典を開催 クラファンで購入の車両の寄贈も

オイスカは、1990年よりフィジー国立青年研修センターにおいて農業研修を実施。青年スポーツ省が運営する同センターの農業コースを委託され、これまでに1000名を超える若者に野菜栽培や養鶏などの実践的技術、自立を支える規律訓練を実施してきました。



クラウドファンディングで車両支援をした佐伯栄子さんは浴衣姿で式典に参加。車両の鍵がジョジョ・マトゥンハイ駐在代表へ手渡された

そうした活動が35周年を迎え、2025年10月22日に同センターで記念式典が開催されました。式典には青年スポーツ省のジェセ・サウクル大臣や道井緑一郎駐フィジー日本大使が出席し、日本からも長年同国への支援を続けてい

る会員らのほか、全国の訪日研修生OB・OGらも多数参加。来賓の挨拶に続き、オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁のメッセージが披露された後、さまざまな活動に貢献してきた個人、団体に感謝状が贈られました。式典後は、OB・OGらが組織するOFFETA (OISCA Fiji Ex-Trainees Association) のメンバーが集う場が設けられました。具体的な取り組みが動き出すところまでは至らなかったものの、それぞれのメンバーがオイスカに貢献したいとの強い思いを持っていること、今後も継続的に意見交換をしながら連携していくことを確認しました。

## 国内 四国支部 第31回オイスカ四国のつどい 台湾の国際協力を知る貴重な機会に

25年10月29日、香川県高松市で「第31回オイスカ四国のつどい」を開催。四国内のオイスカ会員はじめ、支援者、四国研修センターの研修生など約350名が参加し、50、40、30、20、10年の継続会員への永年表彰が行われました。続いて、台北駐大阪経済文化弁事処の沈家銘課長による「持続可能な開発と世界平和―台湾の国際開発協力―」と

題した講演会を実施。本講演会は、戦後80年の節目に日台の友好をさらに深めることを目的として、昨年4月に四国からの会員を含む「オイスカ台湾友好親善使節団」が台湾を訪問したことをきっかけに実現したものです。講演では、台湾における長年の市民活動中でも国際協力の取り組みが紹介され、参加者からは「台湾の国際協力について勉強に



四国研修センターの研修生は、それぞれ母国の民族衣装を着て参加。会員、支援者との交流を深めた

## 海外 オイスカ・インターナショナル グローバルサミット2025 持続可能な未来へのアイデアを発表

25年11月20・21日、インドのカルナータカ州ベンガルールで、オイスカ南インド主催の「グローバルサミット2025」を開催。日本、スリランカ、ネパール、メキシコからもオイスカ関係者が出席する中、「地球再生―持続可能な未来に向けたシナジー」をテーマとした発表が行われ、カルナータカ州のH・K・パテル法務大臣をはじめ、共催

のシュシャドリプラム大学、インドの青年育成団体である世界青年センター(VYK)の代表者などが、地球環境の危機に対する現状打開に向けて提言しました。続いて開催された分科会では、中高生や青年らが新技術を利用した環境問題解決のためのアイデアを提示。最後に、地球再生のために一人ひとりが具体的な活動を実行するこ



発表を行った各代表者。パティル法務大臣は左から5番目

とを約束するベンガルール郊外のスタートアップ農業法人の視察が行われ、サミットの参加者らは、温室での有機栽培の様子を見学しました。また翌日には、ベンガルール郊外のスタートアップ農業法人の視察が行われ、サミットの参加者らは、温室での有機栽培の様子を見学しました。

2025オイスカ冬募金 (募集期間：12月1日～1月31日)



■期間

2025年12月1日(月)～  
2026年1月31日(土)

■使途

- ①オイスカの公益事業全般
- ②フィリピン台風被害支援
- ③スリランカ豪雨災害支援

※災害支援へのご寄附をご希望の方は、WEB上で興味関心のある活動を選択するか、払込票のメッセージ欄にフィリピンもしくはスリランカとご記入ください。

■目標金額

700万円→1000万円(ネクストゴール)

12月12日時点で、当初の目標金額を超える7,249,780円(222人)が集まりました。たくさんの温かいご協力をありがとうございます。ネクストゴール達成に向け、引き続き応援よろしくお願いいたします。

冬募金  
専用サイトは  
こちら!



フィリピン台風・スリランカ豪雨被害状況レポート

2025年11月、2つの大型台風がフィリピンに甚大な被害をもたらしました。初めに来た台風25号カルマエギは、セブ島がある中部地域を直撃。オイスカでは、21年の大型台風に続き、ネグロス島のバゴ研修センターで大木が倒れる、建物の一部が破壊されるなどの被害を受けました。

また、その翌週にも台風26号がフィリピンに接近。北部のアブラ州にあるアブラ農林業研修センターでビニールハウスや養豚場に被害が出て、復旧が必要な状況です。

一方、11月末には、サイクロン・ディストウワがスリランカ

〈フィリピン〉



上/倒れた大木台風の威力を物語る  
下/屋根が破壊されたことで雨漏りが発生

を直撃し、各地で洪水や土砂崩れが発生しました。12月8日時点で被災者数は217万人を超え、ディサナヤケ大統領は今回の災害を同国史上「最も困難な自然災害」と述べています。

オイスカの活動地であるキャンディ県とクルネーガラ県でも被害が相次ぎ、一部の「子供の森」計画参加校からは、子どもたちの自宅が流されたり、浸水被害を受けているとの報告も届いています。すでに複数の学校から支援要請があり、現地では関係機関と連携しながら、被害状況の確認を進め、段階的な支援を始めています。

フィリピン、スリランカの災

〈スリランカ〉



河川や貯水池の氾濫で、オイスカ研修センター周辺でも多くの家が浸水被害を受けた

被災した「子供の森」計画参加校に対し、浸水で使えなくなった衣類・学用品の支援や、学校施設などの復旧に必要な資材の提供を調整している

害復興支援は、冬募金から受け付けています。一日も早く現地で元の活動が再開できるように、皆さまの温かいご協力をお願いします。

# ご支援ありがとうございます！

## 新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。(2025年9月1日～10月31日までの間、本部登録済分。順不同、敬称略)

- 維持法人  
【東京都】株式会社ぶらうおん【富山県】北陸通信ネットワーク株式会社【香川県】五栄カイリク株式会社

- 維持個人  
【東京都】菊池裕子【埼玉県】宮下孝  
【静岡県】久我まち子【三重県】児玉洋子【大阪府】塚田保成【京都府】廣崎博子【広島県】中尾博宣【高見佳宏】塔村浩二【上田祐司】【香川県】長井一喜【大西理之】【俣野英二】川瀧秀明【松本徳】【福岡県】寺川博美【倉本明美】野間口貴紀【船津智香子】【宮崎県】坂元義孝

## 寄附

2025年9月1日～10月31日までにいただいた寄附は次の通り。(順不同、敬称略)

- THE BOEING COMPANY / 「海岸林再生プロジェクト」に1034万3970円
- エプソン販売株式会社 / 海外開発協力事業に200万円
- 東急ホテルズ&リゾート株式会社 / 啓発普及事業と「子供の森計画」に合せて780万2787円
- U.A.ゼンセン / 「海岸林再生プロジェクト」に200万円
- 株式会社プロネクサス / 山梨県道志村での森林整備活動に172万3000円
- ラブ・グリーンの会 / 海外開発協力事業に152万896円
- 日本労働組合総連合会 / 海外開発協力事業に90万円
- COSMOエコ基金 / 海外開発協力事業に84万1455円
- オイスカ三重推進協議会 / 人材育成事業に80万円
- 松中恵子グリーンプロジェクト / 海外開発協力事業に50万円
- 松中信彦【福岡県】 / 海外開発協力事業に50万円
- オイスカ国際活動促進国会議員連盟 / オイスカの活動に32万1016円
- 日本鉄道労働組合連合会 / 富士山の森づくりに50万円
- いすゞ自動車株式会社 / 富士山の森づくりに50万円
- 株式会社オキノ / 富士山の森づくりに50万円
- MUFJファイナンス&リーシング株式会社 / 「子供の森」計画に30万7647円
- 仙台トヨペット株式会社 / 「海岸林再生プロジェクト」に27万700円
- オイスカ活動鹿児島県推進協議会 / 人材育成事業に21万円
- 森田克彦【秋田県】 / 人材育成事業に20万円
- 豊田東名ライオンズクラブ / 人材育成事業に20万円
- 日向一郎【宮城県】 / 人材育成事業に20万円
- 東京電力労働組合 / 「子供の森」計画に15万円
- 株式会社Hacoa / 「子供の森」計画に14万7270円
- KDDI株式会社 / キボウのカケハシ / 富士山の森づくりに13万8700円
- auエネルギー&ライフ株式会社 / 啓発普及事業と「子供の森」計画に合せて10万2350円

- 株式会社高島屋 / 海外開発協力事業に13万2000円

- 新池谷哲夫【香川県】 / 人材育成事業に13万9400円

- 東洋金属株式会社 / 人材育成事業に10万円

- 大橋あやこ【福岡県】 / ミャンマー地震緊急支援募金に10万円

- 長田昭吾【愛知県】 / 啓発普及事業に10万円

- タイ王国大使館 / 海外開発協力事業に97万円

## タイ大使館・外務省から タイ北部での プロジェクトに支援

2025年9月、駐日タイ王国大使館より、27年の日タイ友好40周年の記念行事の一環として実施されるチェンライ県の緑化再生およびコミュニティ開発プロジェクトに、右記のご支援をいただきました。オイスカは、同地で過去20年以上にわたり活動を進めており、本プロジェクトでも中心的な役割を担っています。また同月、タイ王国外務省からも、同様にオイスカタイランドへ50万バーツ(約230万円)のご支援をいただいています。



タイ大使館でウィッチュ大使(左から2番目)と面会し、支援への感謝を伝えた(25年11月5日)

## 今月の表紙写真

Photo by Toyoda Toshiyuki



大根の収穫作業のため、この日も早朝から多くのボランティアが駆けつけた。広大な実習農場を持つセンターにとって、研修生やスタッフと共に、暑い日も寒い日も継続的に活動してくれる地元ボランティアの存在は大きい。(西日本研修センター)

## 次号予告

OISCA  
MARCH | 3  
2026

## 《TOPIC》

東日本大震災から  
15年(仮)

OISCA 1月号  
発行人 / 中野悦子  
発行所 / 公益財団法人オイスカ  
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号  
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111  
E-mail oisca@oisca.org  
編集 : OISCA / 吉田俊通 倉本有沙  
アートディレクション / 土肥幹人  
デザイン / 土肥幹人 坂巻貴行  
印刷・製本 / 株式会社ケープリント



本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。

# 人と育む、地球といきる

理念▶▶▶

## Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

## Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

## Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

## Spirit

Visionを達成するために、  
私たち一人ひとりが  
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。

※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは



公益財団法人  
**オイスカ**

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5

☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111

E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)

<https://oisca.org/>

### 国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103  
関西研修センター 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎072-738-3901  
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

### 国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685  
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎072-738-3901  
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111  
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951  
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎070-5550-7394  
富山県支部 〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128  
静岡県支部 〒431-1115 浜松市中央区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981  
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103  
岐阜県支部 〒503-8603 大垣市久徳町100番地 太平洋工業株式会社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419  
関西支部 〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎070-5550-7394  
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーA&B/トナース内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706  
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

### OISCA NETWORK

福島 〒963-0534 郡山市日和田町字大塚50-8 南根本産業内 ☎024-958-2643 ☎024-958-3741  
茨城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539  
神奈川 〒231-0021 横浜市中区日本大通り33 神奈川県住宅供給公社ビル1F ☎03-3322-5161  
三重 〒510-0958 四日市市小古曾1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745  
奈良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277  
徳島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力㈱徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511  
徳島 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682  
高知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572  
佐賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368  
長崎 〒858-0908 佐世保市光町109 ㈱堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069  
熊本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162  
大分 〒870-0001 大分市生石港町2-12-14 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040  
宮崎 〒880-0879 宮崎市宮崎駅東2-4-9 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673  
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833  
沖縄 〒902-0077 那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881